

### 第3回 東近江市市民協働推進委員会 会議録

開催日時 平成24年9月7日(金)午後19:30~21:30

開催場所 東近江市市役所 別館 2階大ホール

出席者

市民協働推進委員 深尾昌峰、森田初枝、北川久補、河島修、上田祐子、楠神  
渉、廣田喜紀、川戸健一、井尻久嗣、土井正義、小倉昌和  
(欠席:北川陽子、端信子、井上泰夫、大林正平)

市民協働推進連絡会議委員 田中浩、三上俊昭、福井健次、久保文裕、西澤  
静朗、村田淳子、藤井盛浩  
(欠席:井口みゆき、高山幸生)

事務局 まちづくり推進課 黄地、山田、今村

支援コンサルタント (株)ジャパンインターナショナル総合研究所

傍聴人数 2人

議事

1. 開会のあいさつ
2. オリエンテーション
3. ワークショップ
4. 総括
5. 閉会のあいさつ

会議録

開会

【事務局より開会のあいさつ】

(委員長あいさつ)

皆さんこんばんは。お仕事終わられてからということでお疲れだと思いますが、前回同様元気いっぱい頑張らしましょう。今回は「協働」ってなんだろうというお話を、皆さん方色々な背景を持ちながら、お話をいただきました。今日は、それを検証しながら前に進めていきたいと思っています。後でも少し説明があるかも知れませんが、前回のまとめで、皆さん方の意見を丁寧に拾っていただいております。

皆さん方は、たぶん半分以上の方が忘れていると思います。今、苦笑いされた方がおられますが、まさしくそうで、それが当たり前のことです。少しばらばらと振り返りながら今日のワークショップに活かしていただければと思います。後ほど、オリエンテーションのところ、振り返るようにしていただきますので、思い出しながら作業していただければと思います。

後、職員の皆さんからお疲れだとは思いますが、ぜひ活発な意見をいただきたいと思っています。前回、前々回にも申し上げましたが、「協働」というのは、立つ位置

が違うということが大事です。同質化してしまうとあまり意味がありません。ですから、ぜひ違う意見、市職員として思っていることとか、大切にしていることとか、ポリシーとか、曲げられないことがいっぱいあると思います。それを遠慮無く言ってください。言わないと分かりません。ワークショップとかこういう取り組みをしながら、お互いに職員さんは、そのようなことを考えながら仕事をしているのか、市ではどのように考えて仕事をしているのかなど、このような場では本音でぶつからないと分かりませんので、ぜひ本音でぶつかっていただきたいと思います。ですから、前回のワークショップのようにみんながその本音を受け止めていくことが非常に大事になってきます。喧嘩をするわけではありませんので、いい議論をしていきたいと思います。長いようで短い時間になりますが、活発なご意見を一緒に引き出していきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

(事務局)

これからの進行はジャパン総研の方でお願いいたします。

オリエンテーション

(ジャパン総研)

皆さんこんばんは。私ジャパン総研の北井の方から説明をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

それではまず資料の確認をさせていただきますと思います。3つ用意させていただいています。まず資料1で「第3回東近江市市民協働推進委員会(全体スケジュール)」というものを、資料2で「オリエンテーション資料(前回意見の取りまとめ)」を、資料3で「第2回ワークショップ内容(ワークショップの進め方)について」を用意させていただいておりますので、ご確認をお願いいたします。それでは、説明に入らせていただきます。

前回、皆様には、「協働」についての認識を共有するという目的で様々な意見を出していただきました。今回は、それらを踏まえ、実際に東近江市で「協働・参画」していくためにはどういう現状と課題があるのか。また、その現状・課題を見てみると東近江市として、「こういった良い事業があるよ」ということや、「ここはもう少し延ばしていかないといけないな」といった強み・弱みを整理することを目的として、今回のワークショップを進めさせていただきます。

それでは、ワークショップに入る前に、前回どんな意見があったかなどお忘れの方多いと思いますので、オリエンテーション資料を基に前回の意見を紹介させていただきます。

それでは、資料の2をご覧ください。

1ページから3ページでA、B、Cという形で各グループで出た意見のほうを掲載しております。そして4ページからそれぞれグループごとに意見として出たものをまとめておりますので、4ページをご覧ください。

Aグループの意見としては、協働として「行政と市民の協働の関係」と「市民同

士の関係」がある中で、行政は行政なりに市民は市民なりにお互いが考えることが重要ではないかという意見が出ていました。特に市民同士の関係についての意見が多く出ていました。その中でも、地域コミュニティに関する話が多く出ていました。「女性会、婦人会、子ども会において昔のほうが助け合いなど多く、協働していたのではないか」、「昔から住んでいる方と新しく住まわれる方等のかかわりをもたせるためにも子ども会・老人会等が重要ではないか」、また、子ども会・自治会に入っている方は子どもを通じての広がりが考えられる中、「子どものいない地域はつながりがうすくなっているのではないか」など、女性会や子ども会など団体を通じた地域づくりが重要でないかといった意見が出ていました。

さらに、連絡・情報提供の面でも意見がでておりました。「まちづくり協議会に入っていて自治会に入っていないという方が増加しており、連絡したいのにできない場合がある」という意見や、「ひとり暮らしの方が地域にいと行政から民生委員に報告がくるが、個人情報の保護の問題で教えてもらえず苦勞する」など、地域のつながりをつくる上での連絡手段やコンタクトの取り方に対する意見が出ていました。

続きまして、5ページをご覧ください。

Bグループの意見をまとめておきます。Bグループの意見としては、協働に対する認識として「お互いに理解しあうこと」、「お互いに対等な立場で強みを生かすこと」、「様々な人々が互いに問題解決に向けて取り組んでいくこと」などの意見が出ていました。また、それを踏まえて、「協働とは何か」ということを深く掘り下げていただいております。「協働が頻繁に使われるようになったのはなぜか」、「協働という言葉が今特別な意味をもって使われているのはどういうことか」という疑問から、「行政側として住民の力を借りなければやっていけない」、「住民側として行政が何とかしてくれるだろう」といった背景があるんじゃないかといったところまで考えていただいております。最終的に「住民自治のあり方」を考えるべきだという意見から、実際に地域の助け合いは協働かどうかなど考えを深めていく必要があるといったようにかなり深いところまで議論いただいております。

また、「協働」の取り組みとしても、行政サイド・住民サイドでは色々な動きが出ているが、行政側のアイデアや情報だけでは住民自治を進める上で、限界があるので、住民ひとり一人が地域愛・郷土愛など地域を愛する気持ちをもって自分のまちの素晴らしいものを発見したり、話し合ったりすることが大事ではないかといった、「協働・参画」へのそれぞれの気持ちや意識に関する意見も出ていました。

続きまして、6ページをご覧ください。

Cグループの意見をまとめておきます。Cグループの意見としては、イメージとして、「お互いを認める」、「多様性」、「違いを認める」、「共に働く」、「共有・シェアする」、「助ける」、「手をつなぐ」などの意見から、「協働とは特別なものではなく、まちづくりの一部」、「住民ひとり一人のあり方や組織が重要」という意見まで様々な意見が出ていました。また、「協働」を行っていく上で「同じベクトル」、「同じ立場」、「同じ思い」など意見がある中で違いを認めながら最終的に同じところに向かうことが大事ではないかという意見や、「協働」することにより、「個々の相乗効果」、

「創意工夫を高める」といった利点があることから、つながりをもつためのイベントであったり、とりあえず参加してみるという気持ち、また、話し合いの場、意見を交換する場が必要ではないかといった意見が出ていました。さらに「なぜ協働するのか」というところでは、「地域づくり」「地域で幸せに暮らす」、「地域がよくなるため」といった意見がでており、「協働」に関するイメージから「なぜ協働をしていく必要があるのか」といったところまで、幅広く「協働」についての意見を出力していただきました。

続きまして、7ページをご覧ください。

7ページではA、B、Cの発表後、委員長の深尾先生より総括をしていただいたものをまとめております。

まず、先生のお話では、コミュニティの話がでており、市民同士の関係は非常に重要であり、既存の婦人会等が行ってきた色々なことを引き出すと、それ自体が「協働につながっていくのではないか」といったように、「もともと地域の中でコミュニティがもっていたもの、潜在的にあったものをどう活性化させていくか」といった眼差しが大事ではないか」というお話や、「新しい住民や今まで地域であったものだけで解決できないものについては、体制や仕組みをどうするか」という考えが印象的だったというお話をいただいております。

また、「協働という言葉や本質的な自治のあり方が求められている」といった話がBグループで出ていましたが、今まで当たり前だと思っていたシステムを自分たちでどう生かしていくかが自治のあり方を考える上で重要であり、行政ができないことを市民がお手伝いするといった補完関係でなく、市民にしかできないこと、市民の活動があってそれに行政が寄り添う形、支援する形もあると考えることが本質的な議論につながるのではないかというお話をいただいております。

さらに、住民が協働・参画をする上では、自分ができることをみんなが知り合っていくことが重要という話を、婦人会のボランティアを例にお話しいただきました。自分でも何かができるということが分かることで、つながりができたり、一歩踏み出すことができたりするので、そこを引き出すことが大切ですねというお話や、地域を愛するということからどのように参画していくか、まちのオーナーとして誇りや責任をどう果たしていくかということも、「協働」を行う上では重要な視点だというお話をいただいております。

他にも「保育」とは「協働」なのかという問いかけもありましたが、あらゆることの今までのあり方を疑うことで、自分でもできるのではないかなど、ここここで協力すればもっといいサービスができるのではないかなど、実際にそういう行動はどうすれば引き出せるのかなど、踏み込んで考えるといったことも「協働・参画」をするうえでは重要だという話をいただいております。

続いて最終ページですが、このように前回のワークショップでは、「お互いを理解する」、「同じベクトルを向いてやっていくべきである」といった「協働」に関する認識やイメージの話から、市民同士のつながりとしての地域コミュニティの話、住民自治のあり方や行政支援のあり方、さらに、それを行っていくためには情報が少

ないのではないか、お互いを知るための場があるのではないか、といった話まで様々な意見を出していただきました。今後、「協働」の施策や条例をつくっていくためには、実際に東近江市でどういった現状・課題があるのかということを考えて上で、できていない部分があるのであれば、そこをよくする施策を考える、またできている部分があればそこをもっと伸ばすことを考えていくことが重要になってきます。そのため前回「協働」っていったいなんだらうと皆さんで共有したことで、東近江市についての「協働」についての認識が少しずつできてきていると思います。そこで、今回は、実際に東近江市で協働する上での現状と課題を考えることを目的として、市民が東近江市で、住民・行政を巻き込んで「協働・参画」していくためには、どういった現状と課題があるのだろうか、また行政が市民・団体と「協働」していく上での支援としてどういった現状と課題があるのだろうか、といったように市民側・行政側それぞれの視点で議論していただきます。また、それとともに、その現状と課題の中でも、こういう現状があるというのは東近江市の強みではないか、また「こうした課題があるってことはここが弱みだから改善していかないといけないね」といったようにどんな強み・弱みがあるか整理してもらってところまでいければと思いますので、前回意見を参考に、思い出しつつ考えていただくようよろしくお願いいたします。

それでは実際にまだ何を書けばいいのか、分かりづらいところもあると思いますので、資料3の第2回ワークショップ内容（ワークショップの進め方）について説明させていただきます。

資料の3をご覧ください。

今回も前回と同じように付箋紙を使い記入していただきまして、グループごとに意見をまとめて発表していただく形式となります。そして、今回のテーマとしては、先程もお話しさせていただいたように、東近江市で「協働・参画」するにあたり、住民・行政を巻き込んでいくためには住民側としてどういった現状や課題があるのか、また行政側として、住民や団体等に支援を行っていく上でどういう現状や課題があるのかということについて話し合ってください。

例といたしましては、「協働・参画」する上で住民側の現状と課題として何があるかなと考えていただいた時に「子ども会等を通じた地縁活動が活発じゃないか」という意見や「協働の担い手不足が問題じゃないか」など意見が出たとします。そうした場合に、地縁が活発ということは東近江市にとって強みにあたりますので、強みに、協働の担い手不足については弱みにあたりますので、弱みにといった形で意見を出してください。行政側も同じ形で「様々な情報提供ができていないのではないか」「市民・市民団体との連携が不足しているのでは」という意見があれば、情報提供ができていなければ強みだな、連携が不足しているならば弱みだなということで、「何ができていて何ができていないか」などを考えつつ書いていただければと思います。

最終的なまとめといたしましては、資料3の「話し合いながら意見をまとめていく」の横の図にあるまとめ方で整理していければと思います。また、前回付箋紙に

ぎっしり、長い文章で書いていただいていたところがありましたが、今回は、単文で一行書いていただき、話したいことがあれば、付箋を出していただいてその上で話し合ってくださいようお願いします。さらに、話し合いのポイントとして「出た意見に反対はしない」、「思いついたものをどんどん書く」、「メンバーの話をしっかり聞く」、「出た意見への便乗もOK」ということも頭に置きつつ、作業をよろしくお願いします。今回も、各テーブルごとにファシリテーターが入り、作業のほう進めていきたいと思いますので、よろしくお願いいいたします。

#### ワークショップ

【各グループでワークショップを開始】

【テーマ『「協働・参画」を行う上で、東近江市としてどういった現状・課題（強み弱み）があるのか』について、住民側行政側の視野で議論】

（以下、話し合いを通じて出てきた意見を掲載）

# Aグループ

行政

市民

強  
み

弱  
み

## 成功事例

各種団体に対し、財政的支援が大きい

五十年森の整備  
自治会とまち協  
協働

コミセンの指定  
管理  
行政から地域住  
民  
地域コミュニ  
ティ構築

BJF、大凧祭り、  
聖徳祭り、二五  
八祭り等のお祭  
り事業では少し  
ずつ協働(共同)  
で事業ができて  
いる

協働の芽(め)

## 地域のきずな

古くからの集落  
は地縁のつな  
りが強く、あ  
たり前に協働  
できている

↑  
関係がある

## 連携

官・民・地  
(自治会・  
まち協)の  
情報の共有  
が難しい  
できていな  
い

行政と市民  
団体の連携  
不足

新しいコミュニティの可能性

従来の人のつ  
ながり  
協働による新  
たな人のつな  
がり

古くからの集  
落は「つきあ  
い疲れ」にな  
っている面も  
ある

新興住宅では  
新しいコミュ  
ニティーがで  
きる可能性が  
大きい、リ  
ーダー不足

新興住宅等  
では共同作業  
ができず、行政  
まかせ

## 協力不足

市民団体が進  
めている事業  
に行政の協力が  
少ない

~をやりたい  
と思ったとき  
に行政の窓口  
がわからない  
たらいまわし  
にされる

行政の中での  
連携不足もみ  
られる

## 情報共有

行政が進めて実  
施している事業  
の内容が理解で  
きない部分があ  
る

ビン回収(資源)  
市から施策事業  
が市民に十分理  
解されず『一  
方的情報提供不足』

市の施策・事業は  
市民の声をベ  
ースにすることが  
大切『提言』

## 相談

行政が持ちかけるよ  
り、相談があればすぐ  
に対応できる体制づ  
くりが必要

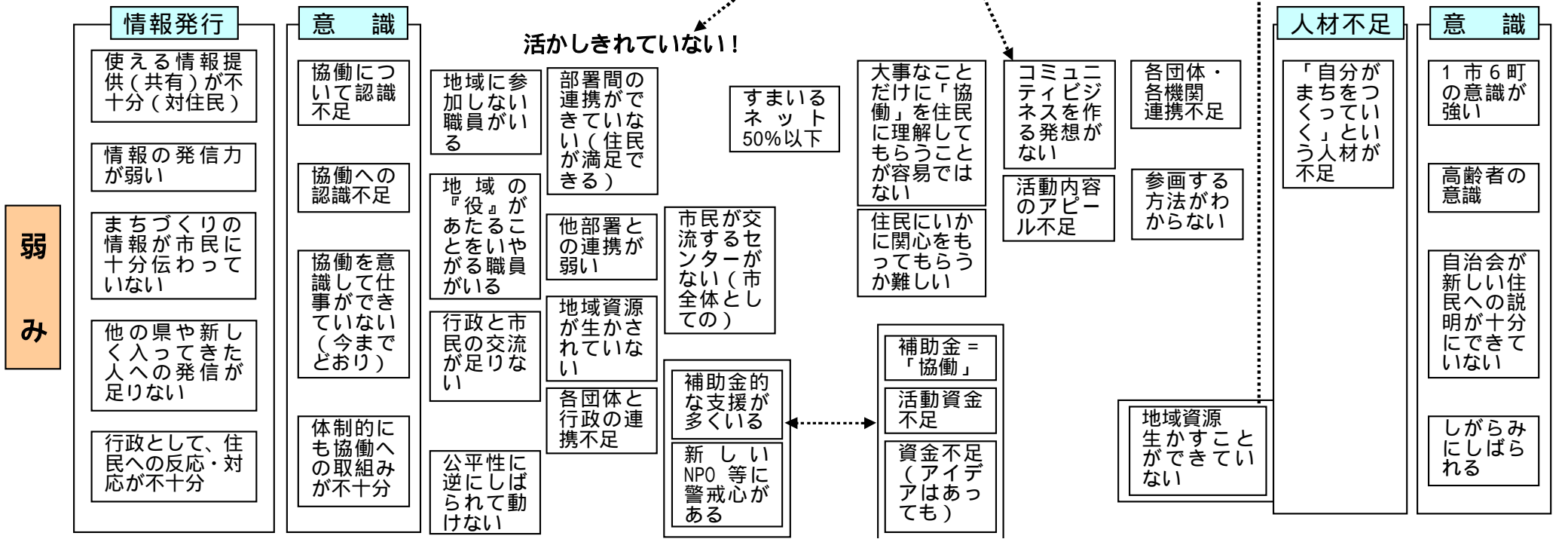
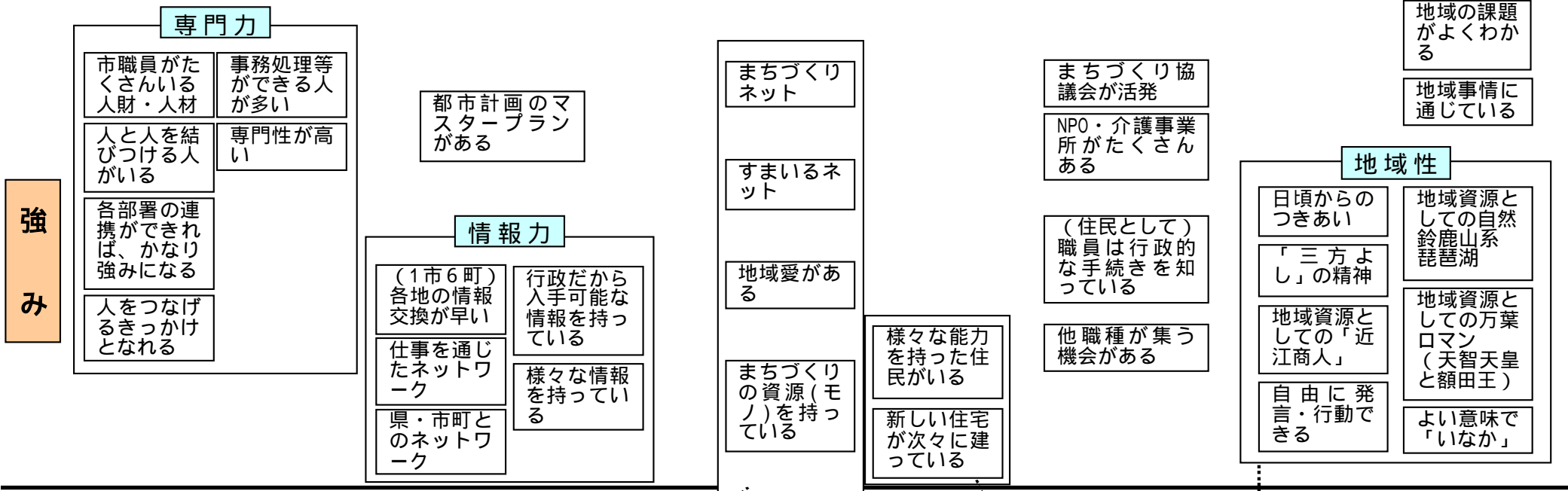
地域とつながるこ  
とを拒む職員が多い

## 頼りすぎ?

行政に頼り  
すぎることが  
多い

市民団体  
(まち協  
等)の担い  
手不足

# B グループ

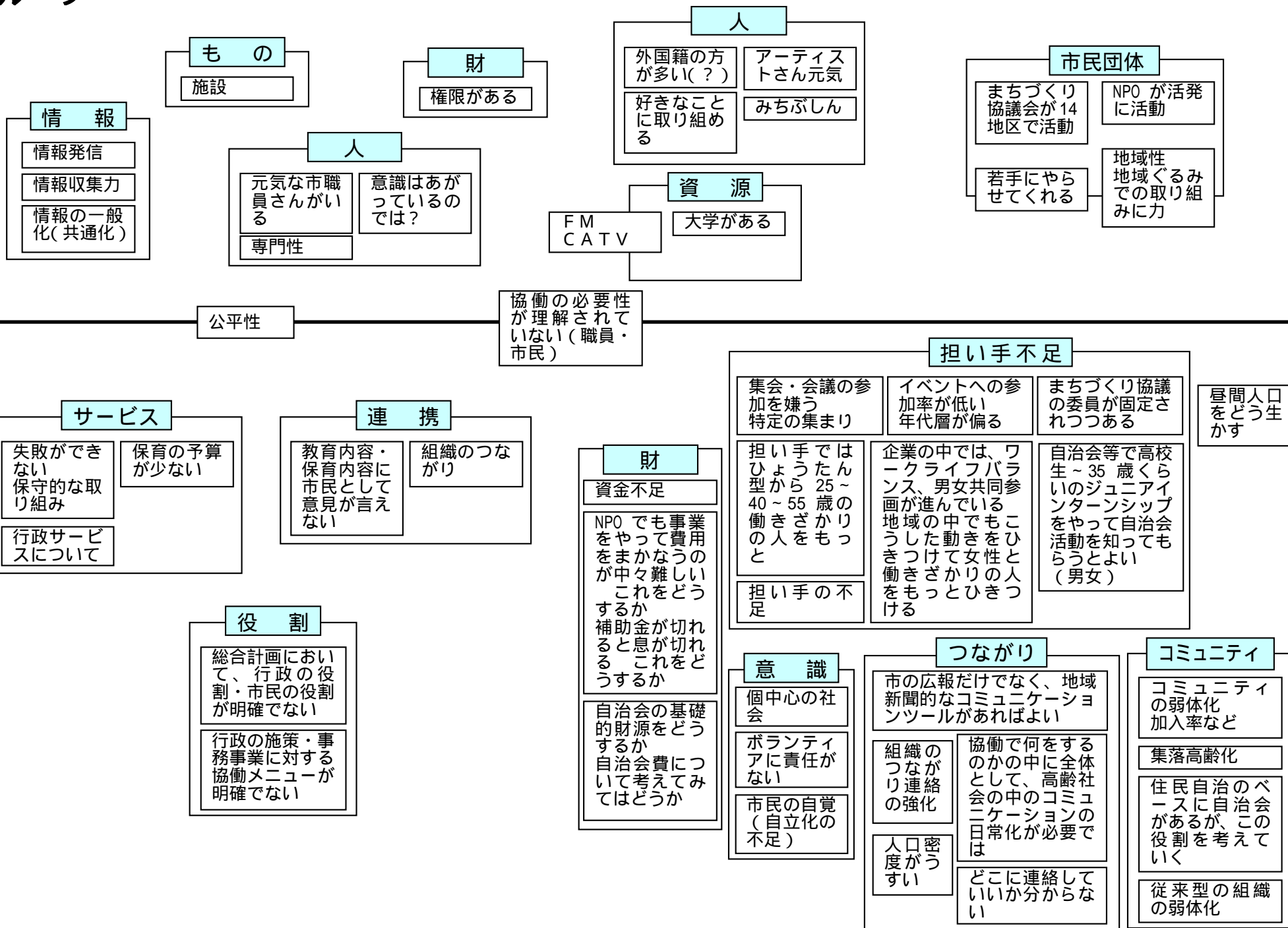




# Cグループ

強  
み

弱  
み



(ジャパン総研)

議論中のところ申し訳ありませんが、そろそろ発表の方に移らせていただきたいと思ひます。Cグループ、Aグループ、Bグループという順で発表をお願いしたいと思ひます。まずはCグループの方よろしくお願ひいたします。

(Cグループ)

Cグループの発表をさせていただきます。

今回Cグループですが、色々な話が出ましたが、今日の提言というのは、「市民行政両方の強み・弱みについての整理を」という話でした。すでに次につながるような解決の話で盛り上がっていましたが、逆にそれを巻き戻しするような感じで、「強みと弱み」を整理してみました。

まず、行政の強みなのですが、「人、物、金」という話がありまして、やはり権限を持っていることから、「職員の意識が合併したことによって上がっているのではないか」、「元気な職員がまだまだいる」、「専門性のある立場の人間がいる」などの職員としては嬉しい意見が出ていました。また、財源については、「税金等の権限を持っている」という話もありました。

また、情報の話も出ており、「色々な分野にかかわる部署があるので、情報の収集力がある、発信していく力がある」というのが行政の強みではないかという意見が出ていました。

さらに、行政の弱みですが、公平性ということで、市民に対して分け隔てなく色々なサービスをするというのはある意味強みだが、逆に個別のサービス、個々の多様化したサービスには対応できてないという話も出ていました。他にも連携の不足ということで、市民とのつながりの中では、「教育内容、保育内容に対しては、市民としての意見を言える場がない、市民からの意見を集約する場所がない」などの意見が出ており、自治会、まちづくり協議会などが、意見を集約する場が設けられていたり、計画の個々には、パブリックコメントなどの場があるが、個々の状況としては、まだまだ連携ができておらず、逆に組織のつながりということで、色々な部署で組織が縦割りになっているのもっとつながりを持っていかなければいけないと感じました。サービス面としても、合併をして何年も経ちますが、やはり「行政のサービスが低下してきている」という意見が出ていました。さらに、「失敗ができないという組織柄がありますので、保守的な取り組みがどうしても多くなっているのではないか」また、その中で、今後の取り組みにもつながるのですが、「総合計画の中で、市民と行政の役割というものを、しっかりきちっとしていく必要があるのではないか」という意見であったり、それに対して、「『協働』していくためのメニューをきっちりと用意していくということが大切になってくるのではないか」などの意見も出ており、役割分担についての話が出ていました。

次に市民の側の強みとして、やはり東近江市という合併した広い地域ですので、アーティストや芸術家の方などが多く、この方々にまちづくりに関わっていただくことにより、すごく活性化していくと思われまます。また、外国の方もたくさんおられるので、こういった形でつながるかにもよりますが、強みになる要素がたくさんあると思います。ただ、色々な取り組みの中で、多くの人材がおられ、実感されているという意見があります。さらに情報面としても、FM、ケーブルテレビ、これは行政側のツールに関わりますが、情報を発信する場所、資源といった部分ですとか、大学というものも強みになるのではという意見が出ていました。

もう一方、市民活動団体等ですが、新しくできた団体、特にNPOやまちづくり協議会の活動がすごく強みとなります。地域性や、地域ぐるみで取り組んでいたりと、自由にやらせてくれるまちづくり協議会があるということで、若手の参加もできているといった強みの部分もあります。

逆に弱みとしては、事業を行う上での資金不足があるという意見があり、行政とまち協との関わりの中、財源をどのようにするか、また、まち協の中でも住民側で自治会の会計をどのような形で収集していくのかなど、様々な団体の状況もあり、そんなことも今後考えていきたいと思われまます。

また、担い手の不足という大きなくりにさせてもらいましたが、まち協の委員も徐々に高齢化されており、イベントの参加率の中で、若手をどう引き出していかなどが凄く難しくなっています。背景には高齢化があると思われまますが、担い手不足という部分に弱みが出てきていると思われまます。

さらに、これは元気がある人と対になる形になりますが、個人中心の社会になってきていることにより、なかなかコミュニティの活性化が進んでなくて、弱体化が進んでいるという意見もありました。コミュニティと書いているところは、自治会加入率や高齢化、あと従来からの組織が徐々に弱体化しているのではないかというところで意見が出ていました。全体としてなかなかうまく整理ができておらず、うまく説明できていなかったのですが、C班の発表とさせていただきます。

(ジャパン総研)

ありがとうございました。続きましてAグループの発表お願いいたします。

(Aグループ)

それでは、Aグループの発表をさせていただきます。

議題にありますように、市民と行政の強み、弱みということで話をさせていただきます。身近に普段感じていること、思っていることを出し合っただけで、実際これに対してどうするということころまでは、話は聞いておりません。なかなかきっちり分けるとは難しく、強みもあるが弱みも絡んでいるとか、あるいは絶対に絡む

という部分が多いということで、この辺を兼ね合わせてお話しさせていただきます。

市民の強みという部分は、やはり昔からの集落や地域では、地縁のつながりが非常に強いということで、色々な活動をするのでひとつにまとまっていることがありますが、新興住宅はその辺が欠けてきているという問題があります。特に、地域では古いしきたりだとか、なかなか今の若い人たちの実態に合わないような状況も起こってきており、年齢を召された方と、若い方との間に地域でのつながりにギャップが生まれている部分も出てきています。また新興住宅の中は、新しいコミュニティができています。私どもの話の中では、各地区50%位の自治会の加入率となっているようですが、そうすると色々な地域で活動するときに難しい問題が出てきます。しかし、この新興住宅の人達は価値観が合えばすぐにまとまって行動してくれる状況があります。その中のひとつに、今進めている防災関係があります。あるいは何かあった時の緊急連絡のセーフティネットがあります。そういうものには、隣との絆が非常に薄いので、何かあった時に助け合おうという自治会内での活動には、非常に参画してくれますし、また、地域で子供を中心とした、あるいは大人を中心とした憩いの場ということで、学校だとか、地域子供会の活動の中で親御さんなどがひとつのコミュニティを持つことで速く、簡単につながります。人と溶け合うのも新興住宅の方は古い集落の方よりも非常に速いですし、そういう「協働」することによって新しいコミュニティなり、つながりができてくるのではないかという意見が出ていました。しかし、ここにも欠点がありまして、新しい住宅街では、何かの目的については動いてくれますが、中心になって組織づくりにかかわっていただける方が、非常に少ないという状況があります。それは、こちらの市民の弱みにも出てきておりまして、最近、市民団体等の担い手不足で、50歳、60歳、70歳の方が中心になって動いていただいています。30代、40代の担い手が非常に不足している状況が出ています。

また、いろいろな事業を進める上で、いかに後継者を育てていくかや、行政主体に人権集会など、いろいろな活動があったときに、本来の自分達の活動ではなくて、動員要請的に行政に使われてしまっているようなことがあり、本来の活動の魅力がなくなっていて、徐々に衰退してきているという意見もありました。

行政の弱みでは、情報が十分に共有されていないという意見があります。一点は、行政の中での情報の共有ができていない、あるいは、行政と市民の情報の共有ができていないということがあります。市役所に行ったとき、担当が違つたら回り回しにされる状況にあり、これから事業なり「協働」を進めていく場合は、もっと横断的に、それぞれの職務のところで協働的に事業を進めていく必要があると思います。

もうひとつは、私は自治会の役員ですが、ビンの回収の時に住民の声を吸い上げることなく市の方から一方的に分別収集を義務づけられております。具体的に何か事業を推進する場合には、市民に理解をしてもらう必要があると思います。そのた

め、これからは、情報提供しながら市民も納得の上で進めていく必要があるではないかというところで、市の施策なり事業を進めていく際に、市民の声をベースにして進めていくことが大切ではないかという意見や、これから市民と行政が対等の立場で協議をして、それを施策に活かしていく、そのようなプロセスを踏んでいって欲しいという意見があり、上から与えられたものに対して協議や審議をするのではなく、もっとボトムアップも含めた提言のなかで施策を進めていく必要があるのではと感じました。

他に、協力不足というのがありました。これは、市民団体に対して行政の協力が少ないことや、各種団体（子供会、育成会等）が自立して活動しておらず、毎年決められた事業を継承してやっているような状況があります。そのため、各種団体が自立した活動ができていないと、今後、「協働」で進めていくには難しいのではないかという意見がありました。

また、東近江市は、他の市町村と比べていろんな事業を、効果的、効率的に積極的に推進しているということがあります。これを少ないと感じているということは、我々市民はやってもらって当たり前だというような認識になっているということです。他市町村からみればしっかりしていると思いますが、我々市民がそれに気がついていないだけのような状況があるということを感じかねばなりません。さらに、その中でも特にコミセンの指定管理はうまくいっていると思います。行政から地域住民に移されたということで、連合自治会とまちづくり協議会が協働して地域のコミュニティづくりに、コミセンが大きな役割を果たしていこうと思ったり、滋賀県下の中でも一番コミセンの指定管理がうまくいっているのではないかなと思います。社会教育委員会議で提案しましたが、コミセンの館長については、必ず自治会連合会の推薦がないと駄目だというような、具体的な決め方をしているのは、県下では東近江市だけです。そういう面では、地域コミュニティの構築がうまく進んでいるのではないかという意見も出ていました。

さらに、強みですが、市の大夙まつりだとか聖徳まつりなどがある中で、その場に参画していくのはどうかという意見が出ていました。それぞれの地区においても、夏祭りや運動会等のイベントをどんどん立ち上げていき、その中で少しずつ色んな方に来ていただき、ふれあっていた中で、つながりができると思いますので、これからはそういうことも重要になってくると思われました。以上です。

（ジャパン総研）

しっかりと説明していただき、有り難うございました。最後に、Bグループよろしくお願ひいたします。

（Bグループ）

同じような意見も出ていますので、Bグループの特徴的なところだけ紹介したいと思います。

行政の強みとしては、市の職員さんがたくさんおり、良い職員が多いことや、各課を経験しており専門力があり、たくさんの情報を持っておられるという意見が出ていました。

一方、弱みとしては、たくさん良い職員がいてくれていますが、「協働」に関しては、認識不足ではという意識の問題と、情報力はあるが、その情報発信や情報提供が不十分で、住民になかなか届いていないのではという意見がありました。

住民側の強みとして、地域性は、日頃からの付き合いもあるし、「三方よしの精神」もあり、良い意味で田舎の良さが出ているところが強みだという意見が出ていました。また、新しい住民がどんどん入ってこられて、新しい住宅が建っているというのが強みで、そういった中で、色々な能力を持った住民がいるということも強みの一つになっているという意見が出ていました。逆に、弱みとしては、住民の中には、まちづくりに関心が薄い人がいたり、「協働」に関して理解できていないという意識の問題、担い手不足、若者や女性リーダーが少ないという人材不足などが意見として出ていました。

全体を通して言いますと、まちづくりネット、スマイルネット、地域愛、資源があり、よい強みはたくさんあるのに、弱みの部分が多いので生かされていなくて、一番の課題ではないかという意見でした。その中でお金の話も出ていまして、行政としたら、行政の支援＝補助金、補助金＝「協働」ではないのですが、住民にとったら活動する上では、資金が必要なこともあるといった相反する意見も出ていました。以上です。

(ジャパン総研)

ありがとうございました。それでは、最後に先生の方から総括をよろしく願いいたします。

総括

(委員長)

お疲れさまでした。それぞれ特徴ある議論が創造されていて、面白かった面もあります。時間があれば他の皆さんにもコメントをもらえれば嬉しいのですが、時間の関係で仕方がありません。前回も傍聴させてもらっていましたが、私のゼミ生が怒っていました。若者がいないなんて嘘です、ここにいますと。そうなのです、皆さん方が言っていましたように、実は、このままで良いというような話はどこにもないのです。困っているし、大変だし、担い手不足、そして、町に興味のない人が多くなっているなどが実態です。しかし、今最後に整理していただいたように、新

住民が多くなってきているということは、強みとしてとらえ、町に居ながらにして興味関心が無い人達をどう工夫するかということを考えなくてはなりません。例えば、大学教員をして若者と接していると、町に興味を持つとか、地域に興味を持つ若者というのは、20年前からすると格段に増えてきています。しかしその一方、地域では若者がいないという現状があります。これは大学があるとかないなどの話ではありません。実は、町内会や自治会もそうなのですが、ある自治会の集会で若者に話を聞きますと、彼らが言っていたのは、「自治会のことをやるのがうっとうしいのではなくて、自分が意見を言っても何も通らない。今まで通りで、やることは決まっている」といったように、要は自分がいることの意味や、自分達が活躍することの意味が見いだせない人達なのです。だから、自分がいなくてもいいだろうと思ったり、言うことがばからしくなって、どんどん逃げていく。その若者達の話聞いてみると、実は、やりたいことがいっぱいあるのだと、町内で活動もやりたいし、町内で見守りの活動とかもやりたいし、大切な子ども達だから、おじいちゃん、おばあちゃんとも交わりをさせたいし、色々なことがやりたいけれど、自分の町は、なかなか楽しいことができないんだという、ある意味での不満を持っています。そのような人達は、町を見捨てているわけではなくて、実はミスマッチがおこっているわけです。これは、若い世代、女性の人達もそうかも知れませんが、先程から出された意見のミスマッチ感みたいなもの、強みと弱みのギャップみたいなものを、どう工夫するかということが、「協働」というものを、もう一步踏み出して考えていった時に、ヒントになるなと私自身気付きました。

皆さん方の取り組みの中で、実は、方法が分からないという議論が相当あったように思います。今までの話はよく分かるが、具体的にどうしたらいいのかが分からないというのが本音だと思います。そこをぜひ、考えていきたいと思います。

例えば、お金の話が出てきましたが、市民側がどうお金を生み出すか。実は、複数のグループで、コミュニティビジネスという言葉が出ています。では、市民がお金をどう生み出していくのかというのは、従来の今までの発想では、あまり考えられません。しかし、ある意味で行政改革や、今からの高齢化社会のようなことを考えると、高齢者の仕事を通して、市民が儲けながら、その儲けを展開していくということもありえるわけです。そのことは、今からもの凄く大事なことになっていきます。

前回もお話ししたかもしれませんが、お金をわざわざ東近江市の外に出さなくてよいのです。業者に委託するというのではなくて、その中にある資源を使ってどうやってお金を回していくか、仕事の保証をしていくか。そのような発想、お金を生み出す方法や仕組みというものを、実はみんなが工夫をすればできるかもしれません。そのようなことを、今日のところは皆さん方がつぶやいていた中に、ヒントがいっぱいありましたので、それを、ぜひ引き出していくような、仕組みづくりや

条例づくりにつなげていければと思っていますし、皆さん方、モヤモヤした気持ちをぜひ大事にしていきたいと思います。

また、先程行政職員の方が「ワークショップをしていて嬉しかった」と言われました。それは、強みのところで、「行政の職員の意識が変わってきたのではないか」と言われたことで、嬉しかったと言われましたが、これは大事なことです。議論していて、気付きとか、強み・弱みが気付けなかった人がもし仮にいたとすると、今日、市民の人達から自分が気付いていなかったことを指摘されていなかったら、今日のワークショップは失敗だったかもしれません。立つ位置が違う人達が議論をすることは非常に大事なことです。

そのため、お金を生み出すということを含めて、人材を引き出す、何もできない人はいないという観点で、引き出すという仕掛けや仕組みを、ぜひ、一つでも二つでもイメージしながら次の議論にいきたいと思います。

私は、8月7日に会社を作りました。実は社長です。地域でお金を生み出しながら地域の皆さん方がやっているような地域協議会や地域のまちづくり協議会や地域のNPO活動のように、いかにお金を回すかということをチャレンジする会社をつくりました。社長の戯れ言として聞いてもらえればいいですが、年間7,000万円を地域社会に還元できないかというふうに考えています。できるとはいえませんが、まだまだ成功していないので、次々回ぐらいには、皆さん方に情報提供できるかもしれません。

皆さん方は色々希望があるかも知れませんが、この場からこういうことをやってみようなどにつなげて、そういうことを後押しする制度や仕組みとは何かということ、是非ここで検討して、一つでも二つでも実現していけるような議論につなげていければと思っています。

皆さん方の今日の議論を、大切な記録として起こしていただくと思っていますので、ぜひ次の議論につなげていただければと思います。毎度ながら、今日も10分ほど時間をオーバーしましたが、今日の総括に変えさせていただきます。本当にご苦勞様でした。ありがとうございました。

(事務局)

先生、どうもありがとうございました。皆さん長時間に渡りまして熱心に議論いただき本当にありがとうございました。

次回ですが、10月12日(金)夜7時半からこの場所で開催させていただきたいと思います。

それでは、これで、第3回の市民協働委員会を終わらせていただきます。どうもお疲れ様でございました。